

# シナプス

第201号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央  
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより  
平成25年5月14日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム  
☆担任の保育日誌から ☆身体測定結果

## 世襲議員も(ある意味)立派!?

大工さんや商店主・中小企業主・農業漁業林業従事者・お寺の坊さん等々、今や遠い昔話のように感じている世襲に至る美談が数えきれないくらい耳にする事がありました。近年は、世襲どころか、いわゆる『限界集落』と称される地域が、日本中のあちこちに見られるようになってしまいました。特に農業や林業・漁業しか生計を立てる手段がない山奥や離島に多い状況ですが、元々日本の教育のすばらしさは『知育・徳育・体育』がバランスよく計画され実行されて来たものが、特に『徳育』の部分がないがしろにされて来た結果が『限界集落』を生んでしまった一因になっているのではないのでしょうか。

『徳育』がないがしろにされた原因の一つに“東京オリンピック”や“大阪万博”の開催が考えられます。戦後急速に復興を遂げた日本経済が安定傾向になり、それを更に発展させようと計画されたこの二つの巨大事業が、東京・大阪の二大都市にいくら呼び込んでも不足状態が続く労働力状況を作り出しました。一気に地方から若い労働者が集中し、東京・大阪近郊にはいくつものマンモス団地が出現し、数えきれないくらいの核家族の誕生です。それ迄は、次男三男たちが大都市へ出ていだけだったものが、長男までもが大都市へ出て就職するようになって(長男だからといって、家業を継ぐべきだと言う気は更々ありませんが、兄弟の中の1人だけでも家業を継ぐ気概を育てるべきだったかもしれませんが)、それぞれの故郷にはそろそろ高齢期を迎える両親だけが、先祖代々続けて来た家業(農業や林業・漁業)を続けるしかなく、10年もすれば高齢者だけの集落になってしまうことが目に見えていました。しかし、目の前の裕福(田舎にいるよりは)で、ものすごく便利な整備された町の生活に浸ってしまうと、誰もが故郷の10年後・20年後には思いが至りま

せんでした。

『徳育』の中には『子どもは親の背中を見て育つ』がありました。親が日々一生懸命に働く姿が、嫌でも毎日毎日目に入る距離で生活していた子どもたち(何人もの兄弟がいました)が、それこそ『親の背中を見ながら』育ちましたから、特に教育しなくても、先ずは“僕も・私も大きくなったらお父さん・お母さんの様に”と、ごく自然に思うようになります。一世帯に何人もの子どもがいましたから、中には全く職種の違う仕事に就く子もいたものの、一生懸命自分の仕事に向かう姿は、両親の背中を見て身につけています。いわゆるニートなんか皆無でした。それがあの〇〇景気を生み出した二つの巨大事業によって、完膚無きまでに潰されてしまいました。唯一残っている『親の背中を見て育つ』事が残っているのは、美談よりもむしろ醜聞の方が多い世襲議員でしょうか。世襲議員がいけないとは言いません、むしろ世襲で議員をしておられる事は立派でしょうやましいとも思いますが、ここ数年、あまりにもひどい世襲議員が目につくものですから、マスコミも知らぬ顔が出来ないんですね。能力が不十分なままに“地盤・看板・かばん”をそっくりそのまま引き継ぐ“親の七光り”だけで世襲するから、そうなるんですかね。タレントにもそういう人たちがいますよね。(こういう園長もある意味、世襲なんです)

園児たちのお父さんは、それこそ朝早く出勤してから夜遅くにならないと家に帰り着けない事が多いですから、我が子に“親の背中を見せる”ことが出来にくい、なにより仕事内容が子どもに理解出来ない状況が多いですから、主にお母さんに“背中を見せる”事をしていただく事が肝要だと思います。先月号でも記しましたが「大きくなったら何になりたい?」と折に触れて聞いてみる事も必要です。 辻本 博人